

あたらしくはいった本 (令和2年2月 貸出開始資料から)

- 小説 イマジン? (有川ひろ/著) 涼子点景1964 (森谷明子/著) 御社のチャラ男 (絲山秋子/著) 雲を紡ぐ (伊吹有喜/著) さいはての家 (彩瀬まる/著) 背高泡立草 (古川真人/著) 太平洋食堂 (柳広司/著) ママ (神津凜子/著) インタビューズ (堂場瞬一/著) 騒がしい楽園 (中山七里/著) フレドリック・ブラウンSF短編全集2 (フレドリック・ブラウン/著)
- 随筆・詩などの文学 これでもいいのだ (ジェーン・スー/著) 息子たちよ (北上次郎/著) 芥川賞直木賞秘話 (高橋一清/著) 会いにゆく旅 (森まゆみ/著) 家族もうつを甘くみてました (ブリ猫。/著)
- その他の本 稽古場物語 (佐々木一郎/著) サイト別ネット中傷・炎上対応マニュアル (清水陽平/著) 文房具語辞典 (高畑正幸/著) 本を売る技術 (矢部潤子/著) 医者が教える赤ちゃん快眠メソッド (森田麻里子/著) イラスト・写真でよくわかる力の要らない介護術 (福辺節子/監修) ディープラーニング (ジョン・D. ケレハー/著)



『イマジン?』
有川ひろ/著
幻冬舎



『これでもいいのだ』
ジェーン・スー/著
中央公論新社



『文房具語辞典』
高畑正幸/著
誠文堂新光社

みんなの としょかん



市民図書館
TEL (921) 4646
FAX (921) 4896
<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

としょかんカレンダー

令和 2年 4	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

○のついた日は休館日

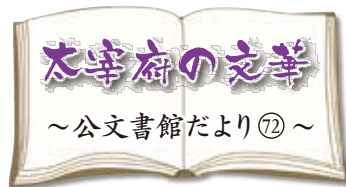
金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

観世音寺文書の世界(2) ～大宰府兵馬所解案～

国立公文書館所蔵観世音寺文書の一通に、天延3年(975)11月24日の日付をもつ「大宰府兵馬所解案」と呼ばれるものがあります。これについては、ずいぶん前にこのコーナーで紹介したことがあります。以降の研究もふまえていま一度考えてみましょう。

時の大宰大式藤原国章は、もともと兵馬所が所有していた秣田(馬の飼料である秣を準備するための田地)を、観世音寺安置の諸仏に對する常灯分料田(仏前に常に灯しておく火のために用いる田地)として施入(社寺に物や田地を寄進すること)しました。この文書は、兵馬所がその施入を了承したことを記しています。この後、兵馬所と観世音寺の間で、これらの田地をめぐってしばしば領有権争いが起っており、この文書はその起点を示すものとして重要ですが、それ以外にも貴重な情報が含まれています。

ひとつは、この文書が「○条○防(坊に通じる)」という、いわゆる大宰府における条坊記載の初見史料であることです。条坊というのは、藤原京、平城京、平安京といった都城にみられる、碁盤の目状の街区割のことで、南北を条、東西を坊と呼んで、○条○坊という表記で街区の位置を示



～公文書館だより⑦～

したものです。大宰府における条坊制の存否については、さまざまな議論がありました。近年、西鉄二日市操車場跡地における発掘調査など、最新の成果をふまえて、井上信正氏が条坊復元案を提示されており、これが広く認知されるようになりました。

いまひとつは、兵馬所に属する官人の構成が知られることです。兵馬所は、大宰府機構のなかに存在した諸司・諸所(大宰府の職務を分掌して行う部署)のひとつです。大宰府にはこうした部署が最大で25ほど存在したのではないかと思われます。この文書によると、兵馬所には、別当として大宰少監が任じられ、その下に勾当・執当・官人代という三等官制がしかれていたことがうかがえます。こうした諸司・諸所がどんな運営体制であったかを知ることができるのは、大宰府における実際の政務を考えるうえできわめて有用です。

残された史料が少ないといわれる日本古代史のなかでは、このように一通の古文書を注意深く読みこむことが必要とされています。

公文書館 重松 敏彦